

平成30年4月1日
京 都 市

平成29年度の業務履行に対する評価及び意見について（まとめ）

平成30年3月29日開催の第16回京都市ごみ収集業務評価推進会議において、平成29年に実施した「市民アンケート調査結果」及び「市民アンケート結果とセルフチェック結果の比較」などに基づき、各委員から平成29年度の業務履行に対する評価や意見をいただいた。

アンケート調査結果などから、これまでの様々な取組を前向きに評価していただいたが、課題に対する意見は次のとおりであり、今後のごみ収集業務の改善に活かしていく。

意見1：燃やすごみ完全午前収集の安定的な実施

平成28年10月から燃やすごみの午前収集を全市域で開始したことで、収集時間が早まり助かったといった声があるなど、一定の効果は出ており、この取組を着実に実施することは、市民サービスの向上に大きく寄与する。このため、引き続き、燃やすごみの午前収集を安定的に実施すること。

意見2：安全運転に向けた取組

7割以上の市民が、ごみ収集車のスピードの出しすぎ、無理な車線変更、マナーの悪い運転等を「見かけたことがない、ほとんどない」と回答されているものの、依然として「スピードを出して走行している」といった声もある。引き続き安全運転に向けた職員への研修を継続的に実施し、安全意識や運転技量の向上に努めること。

意見3：分別義務化に伴う周知啓発の推進

平成27年10月のごみ半減をめざす「しまつのこころ条例」の施行後、確実に分別が進んでいる。また、平成29年度から実施しているまち美化事務所職員が地域に直接出向き、ごみ減量への理解と実践を呼び掛ける地域学習会「しまつのこころ楽考（がっこう）」の取組を評価する。引き続き、市民の分別・リサイクルの取組が進むような確かな周知啓発を行うこと。

意見4：ごみ減量に向けた効果的な広報及び今後のごみ収集業務の検討について

ごみの減量は確実に進んでいるものの、ごみ半減を目指し更なる取組を進めること。取組を進めるに当たっては、高齢者・若い世代に沿ったアプローチ、市民が効果を実感できるような啓発を行うなど、市民が自発的にごみの減量・分別リサイクルに取り組むよう動機づけを行うことが必要である。

また、変化するライフスタイルを考慮し、さらなる市民サービスの向上のため、収集方法の見直しも含めて検討し、ごみ減量の取組を強化すること。